

研究紹介

環境教育

環境教育の推進と校長の役割

地域の環境を生かした取組から

美祢市立重安小学校長

吉村卓夫



一 はじめに

平成二十四年度より、美祢支部では、「環境から学ぶ」「環境について学ぶ」「環境のために学ぶ」ということを環境教育の基本的な考え方としてとらえ、美祢市小学校二十一校全ての学校で取り組んできた。

また、美祢市にある代表的な自然環境（秋芳洞・秋吉台）の特性を生かしながら環境保全・保護についても、研修してきた。

それと同時に、教職員の実態調査のために、環境教育のアンケートも実施した。全小学校の教職員に聞いた結果、環境教育に対する意識が低いことが分かった。

そこで、教職員の意識改革を図るための校長の役割を模索しながら、校長会組織として、三つの部会に分かれて、それぞれが研究の視点をもって、環境教育の推進に向けての校長の役割について、研究を重ねてきた。

二 研究の視点

A部会（校内体制推進部会）

研究の視点一「環境教育を推進するための体制づくりと校長の役割」

B部会（特色ある推進部会）

研究の視点二「環境の保全・活用と校長の役割」

C部会（家庭・地域との連携部会）

研究の視点三「家庭・地域との連携の推進と校長の役割」



各部会での研修の様子

三 研究の概要

(一) 美祢市の現状

ア 美祢市の環境教育

- ①生活環境課依頼による「ダンボールコンポスト」運動への協力
- ②世界ジオパーク推進室の講話

イ 美祢市小学校長会の取組

- ①環境教育推進計画（改訂版）の学習会

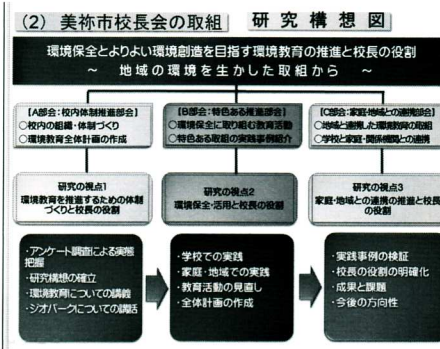
②義務教育課福江功至指導主事の講話「環境教育の現状と課題」

③環境教育アンケートの実施と考察・検証

(二) 研究の実際（実践事例と内容）

ア 視点一（A部会）

- ①研究構想図の作成
- ②アンケート結果の考察・検証
- ③全体計画の見直しと作成



美祢市小学校長会研究構想図

イ 視点二（B部会）

①日校の「ふるさとガイド学習」
ふるさと子どもガイドは、自分で学んだことをもとにガイドをし、多くの人とかわる学習



秋吉台のガイド学習

であり、まさに、「ふるさとに学ぶ」活動だと言える

ウ 視点三（C部会）

①I校の「地域から学ぶ」
地域貢献のできる学校・子ども・先生にしたいという思いから出発。

地域を知らなくてはいけない。ふるさと学習を取り入れる。「人・物・こと」を取り入れ、子どもたちが地域の事を知って、地域に返していく。

(三) 校長の役割（リーダーシップ）

A教育課程への明確な位置付け。I環境教育の取組の見直し。U環境教育への意識改革。E環境教育を大切にする心と実践力の育成。

オ学校と家庭・地域・関係機関との連携。

四 おわりに

環境教育は、これからどんどん見直されていく教育の一つと考える。担当者だけでなく、学校全体で取り組むものである。子どもたちの育ちや学びを豊かにしていくためにも三者（学校・家庭・地域）がより一層協働して取り組むことが重要である。

学校（校長）が、さまざまな発信をしながら、みんなで取り組む意識を今後も高めていきたい。

研究としては、まだみち半ばであり、美祢市小学校長会としては、成果と課題を明確にして、今後、どのように環境教育を推進していくかを共通理解しながら取り組んでいきたい。

それと同時に、いかにして、児童・教職員の意識高揚を行っていくか、検討し、且つ、試行錯誤しながら、進めたいと考えている。